

2024年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にす、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

教育目標・教育方針

- ◎教育目標の理解を深めるため、職員の目に付く場所に教育目標を掲示したり、毎月のキリスト教保育誌を読む時間を設ける等した。保育日誌は各担任時間を掛けて記載し努力しているが、それぞれの目標が高く、評価はあまり伸びなかった。
- ◎学期毎に評価し、教師会で課題やそれぞれの評価について共有し、レベルアップを図ったことで、前年度よりも評価の数値は高くなった。
- ◎キリスト教を理解し、当園の教育目標を深く正しく理解するために、週毎の礼拝出席を重んじ、努力している。

保育への取り組み

- ◎今年度は「絵本」がテーマだったので、子ども達と絵本について調べたり、図書館に見学に行くなど1年を通して様々な活動を行うことが出来た。玄関掲示や行事もテーマに沿った内容にしたり、「絵本ビンゴ」を作り、普段手に取らない絵本に触れる機会を設けることが出来た。当園は絵本の読み聞かせの時間を大切にし、保育に取り入れてきた。今年度のテーマを通して、絵本の重要性を再認識することが出来た。

- ◎項目の中で「ダイナミック」という表現があり、教師達の認識がそれぞれ違うため、評価にバラつきがあった。共通の認識を持つために、お互いどんなイメージなのか話し合う時間を設ける必要があった。
- ◎保育環境については、使っていない保育室など中に子どもがいないか、破損箇所などはそのままにせず早めに対応するなど心掛けた。年々、夏の暑さが厳しくなり、園外に限らず園内でも体調の変化に気をつけるようにした。
- ◎危機管理マニュアルの項目は前年度より評価は上がったが、他の項目に比べ評価は低い。バスの置きざり防止装置の使い方など定期的に行ったり、研修を行うなど次年度の課題も明確になった。
- ◎前年度から、自己評価の項目の中から自己研鑽の課題を選んできた。学期毎に反省・評価を行い、目標を数値化したり、記録するようにした。自分の能力をどう保育に活かすかという点で、現在もそれぞれのタラントを用いて十分に保育に取り組んでいるが、自己の評価は低い。教師達の中でもっとできたのではないかという思いを強く感じる。

総合

- ◎教職員が増え、正職の中でも担任や補助などそれぞれの立場の違いから、自己評価の項目の認識や評価の難しさを感じる。項目についてどう捉えたか、どう評価するかという点で、学期初めに話し合う時間を設ける必要性を強く感じた。交替で保育に入るため、教師会に全員参加することが出来ない。話し合いを全員で行えないので、その点をどう改善していくかが今後の課題である。

2025年度への目標

- ◎自己研鑽は、今年度のように自己評価の項目の中から、各教師が自分で選び、その項目のレベルアップと共に、自己のプロの教師としての質を高める。
- ◎項目の認識について共有する時間を設け、それぞれがイメージしやすい文章にする。
- ◎教師会の中でキリスト教保育誌の読み合わせの時間を設け、カリキュラムに反映できるようにする。
- ◎支援児が増え、専門機関との連携が今まで以上に大切になる。個別のカリキュラムの作成や行政との連携なども、今まで以上に増えることが予想される。個別に記録を取り、また教師間で共有する時間を大切にしていく。シフトの関係上、教師会に出れない教師もいるので、細かく記録を取ることや、誰が伝えるのかなど明確にする。